

August  
2017

No. 30

# 赤レンガ通信

カナディアンワールド公園

北海道

www.pref.hokkaido.lg.jp



## うさぎの穴をまっさかさま

北海道の中央部に自然に囲まれた小さな市、芦別市があります。その中にもうひとつ、さらに小さな町が隠れています。それは、「カナディアンワールド公園」です。公園に一步足を踏み入ると、まさに別世界が広がり、うさぎの穴に落ちたような気分を味わえます。

カナディアンワールドは、1990年(平成2年)に開園したテーマパークで、「赤毛のアン」の舞台となったプリンス・エドワード島の風景を再現しています。来客数が伸びず、残念ながら、1997年(平成9年)に閉園してしまいましたが、1999年(平成11年)に、芦別市が運営する入園無料の市営公園「カナディアンワールド公園」として新たなスタートを切りました。今年の夏、私は友人とこの公園を訪れました。

多くが閉店し、全てのアトラクションが停止になっていますので、正直あまり期待していませんでしたが、意外とお店が残っていましたし、アトラクションがなくても、とても楽しめました！まず驚いたのは公園の大きさです。徒歩で回れるような小さな公園を想像していましたが、もし車で行かなかつたら、公園の端にあった施設を見られなかったと思います。北米の小さな町を運転しているのかと思うぐらい大きかったです。

お店や施設の多くは閉まっていましたが、町の中心部にはまだ営業している店がいくつかありました。私たちが公園を訪れた日は、うだるように暑かったので、涼しさを求めて、全ての店に入りました。赤毛のアンのおみやげや手作りのもの、木工品などを扱っている店や、写真のギャラリーや小さな美術館もありました。従業員の皆さんはとても優しく、公園のことを丁寧に教えてくれました。

一番感動したのは、「赤毛のアンの家グリーンゲイブルズ(赤毛のアンの家)」でした。赤毛のアンの大ファンの友人は、部屋を移動するたび、「へえ〜」、「ほう」と興奮気味に声を上げ、「テレビドラマとそっくりだ!」とうれしそうに話していました。どの部屋もテレビドラマと同じように作られています。他にも、アンを着る体験や、他の登場人物の衣装もあって、「赤毛のアン」を見たことのない私でも楽しかったです。博物館や美術館などでは、たいてい「展示品を触らないでください」というサインがあちこちに書かれています。ここでは「人形に触ってみてください!」と書いてあるサインがあって、楽しく遊べることができました。

しかし、最近はルールが少し厳しくなりました。以前は、グリーンゲイブルズの各部屋へ入ることができ、部屋の中にあるものを自由に使って写真

を撮ったりすることができましたが、来場者数が増えるにつれ、部屋の小物がなくなってしまったからです。今は、部屋の中を見ることができますが、施錠されたガラスの扉が各部屋の入口に設置されていて、中まで入ることはできません。悲しい話ですが、来場客が増えていること自体は良いことだと思います。今年の5月に、映像ストリーミングサービスのネットフリックスで、「赤毛のアン」のリメイク「Anne with an E」が配信されました。赤毛のアンファンが増えて、カナディアンワールド公園を訪れたくなる人も増えるのではないのでしょうか。

最後にカナディアンワールド公園の真ん中にある時計台に行きました。時計台から見た景色はとても美しく、日本にいる感じがしませんでした。赤毛

のアンファンではなくても楽しめるので、ぜひ一度カナディアンワールド公園へ行ってみてください。



グリーンゲイブルズ（赤毛のアンの家）



アンを着てみました！



テレビドラマとそっくりのアン部屋



人形と遊んでいる友人



# 北海道 JET スポットライト



北海道にはアメリカ、カナダ、シンガポール、中国、韓国、ドイツ、フランス、ロシアなどから約250人の JET プログラム参加者(外国語指導助手、国際交流員、スポーツ国際交流員)がいます。赤レンガ通信ではたくさんの国々からやって来て現在北海道で暮らす人たちのストーリーを伝えていきます！



## MEET CHRIS SANTOS

クリス・サントスさんは、英国・ニューキャッスル出身です。JETは5年目で、新ひだかで高校のALTとして勤務しています。ランニング、沖縄三味線、アイスホッケー観戦、そして日本料理をおなか一杯食べることが大好きです。



なぜ北海道へ来たのですか。

**A** 運命のいたずらだと思います。大学で映画製作を専攻していた時にアジア映画に興味を持ち始めました。大学卒業後、日本を3週間訪れ、慌ただしく旅行をし(東京から長崎まで移動し、途中あちこちに立ち寄りました)、この国が大好きになりました。JET プログラムに申し込んだ時、勤務地の希望は出ませんでした。採用通知を開け、勤務地が北海道と記載されているのを見て、正直最初は落ち込みました。雪が降るとのこと以外、北海道について何も知らなかったからです。でも、逆にそのことが、北海道の全てが新鮮で素晴らしく感じられたのだと思います。。雪以外は！雪だけはまだ好きになれません。

これまで北海道の経験はどうですか。

**A** 楽将来自分の人生を振り返った時、JET プログラムを通じて北海道で過ごしたこの5年間で最も貴重な思い出になると思います。ここに来ることを決めたことは英断だったと思います。北海道での生活は、新たなスキル、世界各国から来た素晴らしい友人たち、新たなキャリアの方向性などを与えてくれました。新たな自分の発見することもできましたし、そして何よりも、素晴らしい僕のフィアンセと、腕を大きく広げ、温かい気持ちで、自分を受け入れてくれる

新しい家族もできました。

これまで一番印象に残っていることは何ですか。

**A** 今年の大きな出来事を二つ紹介します。一つ目は、ロック好きの僕の大好きな生徒たちとバンドを組んで、歌とギターを披露したことです。この経験を通じ、彼らと深い絆ができたことが、何よりも素晴らしいことだと思います。二つ目は、私の第二の故郷となった美しい増毛町に行き、彼女にプロポーズしたことです。幸い、彼女はイエスと言ってくれたので、とてもいい思い出です！

新ひだか町の好きなところは何ですか。

**A** とても住みやすいことです。個人的に、静内(正式には新ひだか)は北海道で最高の場所の一つだと思います。雪は多すぎず、少なすぎずのちょうどよい程度に降ります。4年間でまだ一度も雪かきをしたことがありません！夏は、地平線に広がる太平洋と日高山脈のコントラストがとても美しいです。もちろん、馬が駆けるのをあちこちで見ることができ、アイヌの歴史にも数多く触れることができます。それから、日本最長の桜並木もあります。素晴らしいと思いませんか？